

導入効果

- ・ 農薬・肥料散布用ドローンを活用した農薬の散布所用時間は、動力噴霧器での農薬散布に比べて作業時間は79%削減した。
- ・ 大豆の品質が向上し、病虫害やしわ等の被害粒の割合は、無処理区では84.5%であったが、実証区では34.5%に減少した。
- ・ 生育管理ドローンによる航空画像により、生育のバラツキが可視化され、ほ場箇所に応じて追肥量の調整が可能になった。

課題

- ・ 本体価格およびバッテリー等の付属品が高く、ドローンのメンテナンスや資格取得について継続的に手間や費用がかかるため、経営面積によっては費用対効果が見合わないことがある。
- ・ バッテリーを充電しながら長時間の作業をする場合、ドローン本体とは別途発電機や複数のバッテリーが必要であるため、コストがかさみやすい。

○実証状況（写真、図など）

AGRAS T10

使いやすく初心者にも最適な農業ドローン



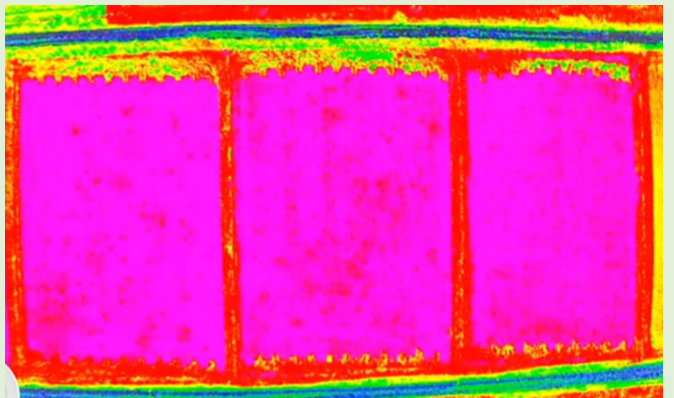
農薬散布用ドローン
(DJI社HPより)



生育管理用ドローン



実証ほ場 農薬散布の様子



生育管理用ドローンの
航空写真